



# ごはん。お米とわたし

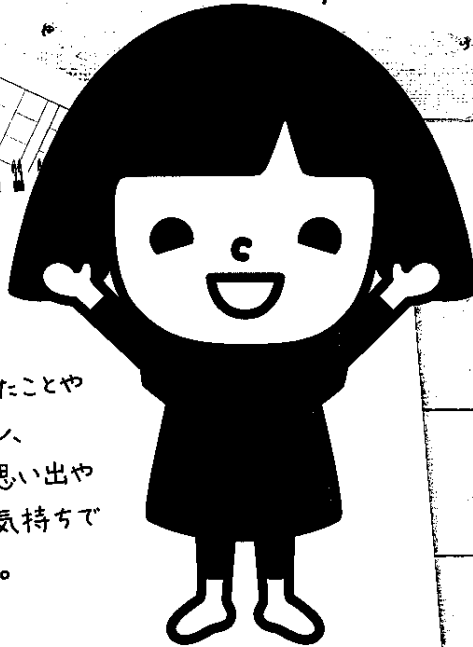
## 作文・図画コンクール

みんなにとっての【ごはん・お米】を自由に考えてみよう!

### 課題

(作文・図画両部門共通)

毎日のごはんでおいしかったことや  
家族とのコミュニケーション、  
お米・ごはん食に関する思い出や  
考えたことなどを素直な気持ちで  
自由に表現して下さい。



美味ちゃん  
©みんなのよい食プロジェクト

第44回  
作品募集中!



本コンクールは、みんなのよい食プロジェクトの一環として  
取り組んでいる事業です。過去の受賞作品は、JAグループHP  
([ife.ja-group.jp/](http://ife.ja-group.jp/))からご覧いただけます。

しめきり日 令和元年9月10日(火) 必着

応募・  
問い合わせ先

JA埼玉県中央会地域振興部 暮らし・農政広報課またはもよりのJAへ  
中央会連絡先 TEL.048-829-3307

#### 応募資格

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。特別支援学校の小学部・中学部に在籍する児童・生徒。

#### 【作文部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内)
- 2部 小学校4年生～6年生 (400字詰め原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙4枚以内)

#### 応募規格 (枚数・大きさ)

#### 【図画部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 (B3判、もしくは四つ切りの市販画用紙を使用。画材は特に制限しません。)
- 2部 小学校4年生～6年生
- 3部 中学校1年生～3年生

#### 賞

内閣総理大臣賞	作文・図画部門各1名	計2名
文部科学大臣賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
農林水産大臣賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
全国農業協同組合中央会会長賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
優秀奨励賞	各部門各部門ごとに15名	計90名
学校奨励賞	内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣各賞受賞者所属校	計14校

※各部門には審査基準がありますので、詳細については上記お問い合わせ先までご連絡下さい。

主催：農業協同組合／都道府県農業協同組合中央会／全国農業協同組合中央会

後援：内閣府／文部科学省／農林水産省／全国都道府県教育委員会連合会／全国市町村教育委員会連合会／日本放送協会(NHK)／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／(公社)全国学校図書館協議会／(公社)日本PTA全国協議会／(公社)米穀安定供給確保支援機構

協賛：全国農業協同組合連合会／全国共済農業協同組合連合会／農林中央金庫／全国厚生農業協同組合連合会／(株)日本農業新聞／(一社)家の光協会／(一社)全国農協観光協会

耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

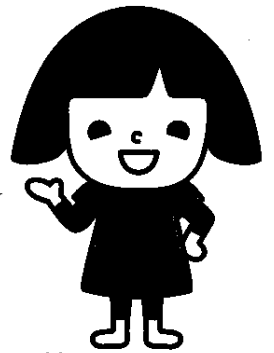
JAグループのウェブサイトでは、皆さんのお近くにあるJAファーマーズマーケットや国産野菜や果物の魅力をご紹介します。ぜひご利用下さい!





## 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することをつうじて、稲作農業の多面的機能と、お米・ごはん食の重要性を広く周知するために開催しています。



美味ちゃん ©みんなのよい食プロジェクト

＜過去の受賞作品＞ JAグループHP(life.ja-group.jp/)を開き   でもご覧いただけます。

※学年は受賞当時のものです。

### 図画部門

#### 第41回内閣総理大臣賞



「おにぎり一つ、うれしくてありがたい」

静岡県浜松市立南部中学校3年  
柴田 紗希さん

#### 第42回内閣総理大臣賞



「めっちゃおいしいね!」

三重県鈴鹿市立白子中学校3年  
加藤 ひろなさん

#### 第43回内閣総理大臣賞



「お米を作る人達」

島根県松江市立乃木小学校5年  
石松 祐さん

### 作文部門

#### 第43回内閣総理大臣賞

「五年生の稲作体験」  
岐阜県高山市立清見小学校5年  
山下 紗世さん

私の通う清見小学校では、毎年五年生が稲作体験をします。学校の近くの塩谷さんという方に、田んぼをかり、もみまきから田植え、稲刈り、脱穀、精米までを習っています。保育園年長の時にもやらせてもらいましたが、五年生の私達にはよりくわしく、いねいに教えてもらっていると思います。私はどうして、毎年五年生が稲作を学んでいるのか、大人達がどうして私達に米作りをさせたのか、ずつと不思議に思っていました。学校の授業で稲作の方法を習えば、一時間くらいですむ事なのに、なぜでしょう。五年生全員が将来、農家になるわけではありません。うちにも昔、田んぼがあったのですが、私が生まれるずっと前にやめています。だから将来私は米作りを仕事にする事は無いと思います。

四月にもみまきをして、五月に苗がちょうど良い大きさに育ち、田植えをするため、私達は、裸足で田んぼに入りました。「裸の所にそつこの深さまで植える。」  
「かためであるでここからもつて行けよ。」  
「二、三本ずつ、線の間にも入れてな。」  
「賑はんにように気をつけられよ。」

塩谷さんが説明してくれます。田んぼのどろはドロドロしていて、足がぬげなくて進むのが大変でした。保育園の時より体が大きくなったせいしか、思うように動けません。機械のない昔の人達は、こんなに苦勞をして、もつともつとたくさん苗を、田んぼに植えていったのだと感じました。五年生二十二人で大ききざきをして一枚畝の田んぼで昔の人に申し訳ないような気持ちになりました。

毎日、登校の時に見る、私達の植えた田んぼの稲。一株ごとが大きくなり、背が高くなっていきます。私は、ごはんやおもちが大好きなので稲刈りがとても楽しみです。

七月のはじめ、高山では沢山の雨がふりました。学校も休みになり、あふれそうな川や水びたしの畑を見て、五年生の田んぼは大丈夫なのかと心配になりました。私達の稲はこの雨の中、ちゃんと立っているかな、流されていらないかな。外出は禁止だけど見に行きたい気持ちになりました。こんなに楽しみにしている稲刈りが出来なくなったらどうしようかと不安になりました。雨が上がり、登校する時に田んぼを見ると稲は元気でした。ちゃんとみんな立っていて私はホッとしてしました。

安心すると同時に、私は、植物に対してこんな気持ちになった事が今まであったかと思いました。自分達が植えた稲を心配する気持ち、雨がやむのをまつ気持ち、体験しなければ分からない。生計がかかっている農家の方々はもっと強く思っているはずです。ずつと昔から受け継がれてきた稲作、田んぼを大切に思う心、私たちが五年生に教えたのはこれだったのかと、やつと分かりました。田んぼの授業はとても大切な事なのです。

塩谷さん、本当にありがとうございます。

### 応募総数

第43回「ごはん・お米とわたし」  
作文・図画コンクール

作文部門: 52,812点 図画部門: 65,778点

### 第44回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 全国審査会／表彰式日程

【全国審査会】 作文審査会: 令和元年11月19日(火) / 図画審査会: 令和元年11月20日(水)  
会場: JAビル(東京・大手町)

【表彰式】 令和2年1月11日(土) 会場: JAビル(東京・大手町)

きりとり線

個人作品添付用応募票

作品番号	都道府県コード	作品番号	部門
	11		作文・図画
作品の題名			
フリガナ			性別
氏名			男・女
フリガナ			学年
学校名		学校	年組
フリガナ			
学校所在地			
電話番号			
当該JA名			

きりとり線

個人作品添付用応募票

作品番号	都道府県コード	作品番号	部門
	11		作文・図画
作品の題名			
フリガナ			性別
氏名			男・女
フリガナ			学年
学校名		学校	年組
フリガナ			
学校所在地			
電話番号			
当該JA名			

コピーしてご使用下さい。

※本コンクールの作品応募に際して提供された  
個人情報、承諾なく第三者に提供しません。